

新春の御挨拶

本年は残寒厳しく、春暖を感じる間もなく急な桜花の訪れとなりましたが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

散々皆様に悩ませた新型コロナウイルス感染症は、5類引き下げ以降兵庫県内での感染状況は週当たり400人前後と持続はしておりますが、治療薬が行き渡るようになり以前ほどの脅威はなくなりました。

代わりに脅威となったのが、インフルエンザ・マイコプラズマ・ノロウイルスなどコロナ禍以前に猛威を振るっていたウイルスです。手指消毒やマスク着用を徹底した影響で上記ウイルス感染症はなりをひそめておりましたが、コロナ禍が明け過剰な感染対策が解除されると一気にブレイクし、特にノロウイルス感染症は連日食中毒のニュースになる程勢いが強いです。ご高齢の方には入院加療の必要性が高い感染症のため、急な嘔吐・水様下痢・腹痛症状等あればご相談いただければと思います。

本年2025年は、大阪万博が開催され関西にとって重要な1年になるかと思われませんが、一方我々医療・介護関係者としても大きな分水嶺の年といわれております。

これは「2025年問題」といわれており、団塊世代の方々が全員75歳以上の後期高齢者となり全人口の5人に1人の割合を占め、高齢化が一層進む年になるといわれております。また少子高齢化の影響で医療介護従事者の減少も懸念されております。

このような状況で懸念されている点が「高齢者救急の増加」と「在宅医療の増加」の2点で、地域医療の支え手の減少と救急の受け皿の減少により地域医療のひっ迫が予想されるため、病院単独での治療で完結するのではなく、他の施設や介護・福祉の専門家の方々とより広く連携し、「治す医療」と「暮らしを支える医療」の両立を目指す必要があります。

上記を踏まえ、皆様が住み慣れた地域で安心して暮らすことのできるよう、医療と介護を両立できる「地域完結型の医療体制」の構築を目指し皆様の生活の一助となれるよう、職員一同より一層努力し邁進することをお約束し結びの言葉とさせていただきます。



2025年4月吉日

医療法人 昭圭会 理事長

伊藤 秀裕